

## 中央図書館 館内利用における事例について

## ・新聞（当日分）や雑誌（最新号）の閲覧場所

- ⇒「新聞は新聞閲覧台でお読みください」の表記はしてきたが、現実には容認している。
- ⇒学習席や参考図書コーナーで、広げて読みたい調べたい人がいる。
- ⇒中には、当日新聞や雑誌最新号を複数確保しようとする人、長時間に渡り読みたい人がいる。
- ⇒他の利用者から所在を訪ねられて、当該利用者を探しにいくこともある。

## ・館内でのパソコン利用場所

- ⇒以前は閲覧席でのパソコン利用を禁止していたが、今は音の出るキーボード利用は遠慮してほしい旨の表示をしている。
- ⇒パソコンコーナーの設置以降はパソコンコーナーから埋まるようになったが、閲覧席利用者も見られる。スマートフォン・タブレットは館内各所で利用されている。
- ⇒まれに、閲覧席利用者からキーボードの音に対するクレームがカウンターに寄せられる。

## ・図書館内での音の発生

- ⇒子どもの声を一定容認していくことは大切と考えるが、現実的な線引きは迷いながら対応している。保護者に意識が全く感じられない事例もあり、難しさを感じることもある。
- ⇒様々な音は（居眠りのいびき、荷物を探すときのコンビニ袋の音…）どこまで容認すべきか？
- ⇒図書館は静寂であるべきとの考えは根強いが、容認しあう意識の必要性を強く感じる。

## ・大人の児童図書コーナーの利用

- ⇒児童図書の利用目的ではなく、児童図書コーナーの座席が合っている、空いているから問題ないだろうとの理由で、児童図書コーナーを利用する大人がいる。
- ⇒関係ない大人がいることで、入りづらさを感じる子どもや子育て世帯もいるのではないか？

## ・談話・食事コーナーの利用

- ⇒長時間の学習や読書利用により、食事ができない、入りづらいという声があり、長時間利用を控えるよう表示をした。
- ⇒声が外に漏れるのを防ぐためカーテンをかけていたが、夕刻から夜にかけて暗く雰囲気が悪いとの声があり、カーテンを外した。話し声が外に漏れる場面は増えたかもしれない。

## ・どのように表現し、どのように利用者に理解を求めていくか

- ⇒管理的立場からのルール提示は細分化が進み、結果として利用しづらくなると感じる。